

オンライン
シンポジウム開催

12/20 Fri
14:00-15:30

申込メ切：12/19

移民史継承のモデル構築を目指した広域MLA
連携事業（令和6年度Innovate MUSEUM事業）
ジネオロジー（ルーツ調査）関係シンポジウム

ルーツ調査におけるアーカイブスの機能と専門家の役割 ～アイルランド・スコットランドの先進事例調査から～



近年、海外移民の子孫が自身のルーツを調査し、ルーツのある場所をめぐる「ルーツ・ツーリズム」が世界中で盛んになっています。日本においても、海外日系人は自身のルーツに高い関心を持っています。しかしながら、言語や慣習、社会システムの違いから、調査することは難しく、また、海外からのルーツ・ツーリストの受け入れについても、今後の検討課題となっています。

このシンポジウムでは、北米などへ多くの移民を輩出し積極的に海外からのルーツ調査、その訪問者を受け入れているアイルランド・スコットランド（イギリス）における博物館（M:Museum）、図書館（L:Library）、文書館（A:Archives）の機能及びジネオロジストという専門家の役割などを紹介し、日本における課題の整理などを話し合います。

内容：

発表 ルーツ調査における図書館・アーカイブスの役割

沖縄県立図書館 司書 原 裕昭 氏

発表 ルーツ調査専門機関の役割と博物館

沖縄キリスト教学院大学 非常勤講師 金城 さつき 氏

発表 ルーツ調査専門家（ジネオロジスト）の役割と意義

和歌山大学 観光学部 教授/紀州経済史文化史研究所 所員 東 悦子 氏

コメンテーター：京都外国語大学 国際貢献学部 教授 河上 幸子 氏

質疑応答

主催：和歌山移民研究を軸とした国際交流事業実行委員会

企画・運営：沖縄県立図書館



申込フォーム
ZOOM
ウェビナー